



たも網を手に、夢中で川の中の生き物を探る八上小の4年生＝丹波篠山市糯ヶ坪で

# 川の中の生き物探る

## 「捕ったでー」

八上小 4年生

八上小学校の4年生13人がこのほど、丹波篠山市が推進する「エコ・ティチャーのおもしろ環境講座」として、同校そばの田松川で「川の中の生き物の調べ」を行った。児童たちは、たも網を手に、腰下まで小川に浸かって水草の茂みの中や岩陰をカサカサと探った。みごと網の中に魚が入ると、「見て見て、捕ったでー」と声を張り上げていた。わずか1時間程度で約20種の生き物を確認した。

同講座の登壇講師で、篠山東雲高校の理科教師でもある

トンボの幼虫など多種多様な生き物を確認した。さんは、「こんな小さな川に、こんなにもいろんな生き物が生息していたことに驚いた」と目を丸くし、さんは、「この小さなエリアで、これだけたくさんの生き物がくらしているとなると、びっくり海だと一体どれだけの生き物がくらしているのだろう」と思いを巡らせていた。

2023年6月15日  
丹波新聞

(54)の指導のもと、川幅約3m、水深は深い所で40センチほどの場所を調査を開始。「水草の中にかくさん隠れとるぞ」と見守らは繁茂したオオカナダグサの茂みの中にもたも網を突っ込み、さまざまな生き物を捕まえていた。捕獲した生き物は、岸に用意した水を入れたタッパーの中に放ち、種類ごとに採集。さんから生き物の名前や生態などを教わった。さん魚類はトンコのみという結果になったが、アカハライモリやヌマエビ、コオニヤマネなど複数の